

# 「第2期京都大学SDGSリーダー育成プログラム」

主催：京都大学 共催：京都超SDGsコンソーシアム、エコ〜るど京大、京都府立北桑田高校、京都市立京北小中学校  
 ※本事業は、一部、日本生命財団環境問題研究助成の支援を受けて実施するものです。

## 【企画の目的】

持続可能な開発目標（SDGs）が2015年に国連で採択され、2030年まで残り10年となりました。その目標達成の要素の一つとして、社会問題の背景にある課題を整理し、複数の課題の関係性を分析することにより、統合的な解決へとリーチするための方策を導き出す『思考力』や『発想力』などを備え、『システム思考』で考えることのできる人材の育成が必要と考えられます。また、次世代を担う中高生がSDGsの目指す社会像を我が事として理解し、学校や地域における実践的な活動を牽引することが、持続可能な社会の実現には不可欠です。そこで、そのためのリーダーを全国各地から公募し、育成することを本企画の主目的としています。加えて、本企画を通してSDGsや社会課題の解決に挑戦しようという人同士のつながりが創出され、時に世代や立場も超えて、互いの想いを交わし、活動状況を共有し合えるコミュニティが形成されることを期待します。今期の企画では、「農山村を持続可能で豊かな暮らしの教育拠点にするための実践研究」の対象となっている京都市京北地域に着目し、異なる地域から中高生が京北地域に集うことにより有機的な繋がりの創出を目的としています。  
 ※ここでのSDGsとは、国連の提唱する17のゴールにとらわれず、持続可能なコミュニティ及び世界を実現するために必要な「様々な社会課題を複眼的に検証する考え方」とします。

## 【募集要項】

- ◆開催期間：2021年6月12日～2022年3月12日
- ◆会場：オンライン、京都市京北地域、JT生命誌研究館、京都大学など
- ◆出願資格：応募時に中学3年生、高校1年生、高校2年生であり、次世代のリーダーの在り方、環境問題やSDGsに関する活動に興味関心のある方（※中等教育学校の場合は3年、4年または5年）
- ◆募集定員：約50名（出願期間 4月12日～5月10日）
- ◆最終課題：SDGsの視点で「本プログラムで学んだこと(学びとは？、レジリエンス、京北・中山間地域、未来のコンビニ、生物多様性等)に関連する課題を設定して、その解決方法をプレゼンテーションにまとめてください。社会実装は難しいが、今までの常識を覆すようなオリジナリティのある企画を期待します。ただし、必要なコストや時間、手順などを盛り込んでください。」

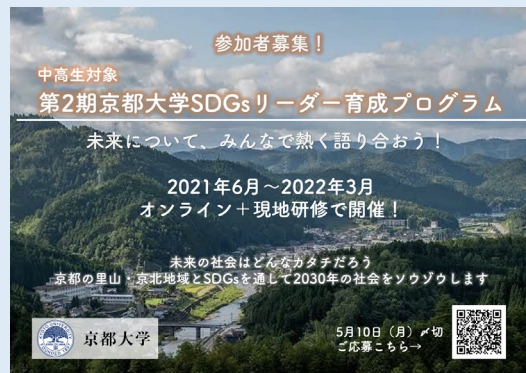
## 【応募課題】

次の1～3の課題全てについて600字程度で記述してください。※ポイントを押さえつつ、できるだけ簡潔なものが望ましいですが、自分の考え等を表現するために文量が増える場合は、制限を設けません。

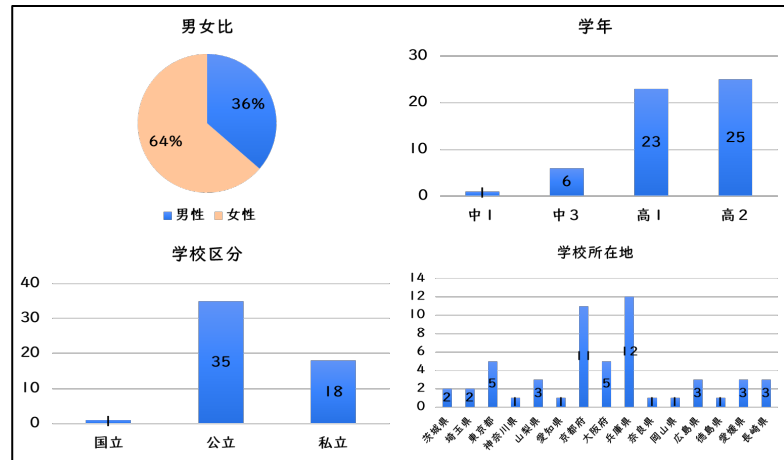
**課題文1**：SDGsに対するあなたの考えや思いを記述してください。既にSDGsに関する取り組みを行なっている方はその内容も合わせて記述してください。

**課題文2**：日本の中山間地域に関連する課題を1つ挙げ、それに対する解決策を考えて記述してください。

**課題文3**：あなたが「リーダー」だと思ふ人物を1人挙げ、その理由も含めてこれからの時代を牽引するリーダーに必要なと思う素養・能力について記述してください。



## 【合格者属性】



## 【年間スケジュール】

6月12日	開講式/SDGs問答 尾池和夫（京都大学第24代総長） 石川淳哉（Social good producer） 釣流まゆみ セブン&アイ・ホールディングス
6月26日	受講生交流会
7月10日	ゼミ：宮野お樹（京都大学学際融合教育研究推進センター）
7月24日	ゼミ：藤田裕之（京都市レジリエント・シティ統括監）
8月5日～7日	京北合宿
9月11日	事例発表会1
9月25日	事例発表会2
10月9日	ゼミ：岩井正人（株式会社マクドナルド）
10月17日	フィールドワーク：WOODRISE
10月23日	ゼミ：株式会社セブン&iホールディングス
11月13日	ゼミ：田中良泰（京都府立北桑田高校）
11月27日	フィールドワーク：JT生命誌研究館
12月4日	フィールドワーク：茅狩り体験実習
12月11日	ゼミ：石見拓（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻）
12月25日	中間発表会
1月～2月	最終成果発表に向けてのプロジェクトメイキング
3月12日	最終成果発表会、修了式

## 【オンラインゼミの様子】Zoomを用いたセミナー+グループディスカッション



## 【京北合宿】北桑田高校や現地の方の協力を得て合宿を実施



## 【京北合宿受講生レポート※一部抜粋】

中山間地域の過疎化、林業従事者の減少など今まで自分が深く調べたことのない分野の現状や問題点などを学びました。合宿に行く前は、日本の林業について「木を切る＝環境破壊＝外国産に値段や手間で見られる日本の林業は廃れていっても仕方ないのかな」というイメージがありました。しかし、現地に行くと、林業従事者の方は「人工的に植えた木の場合は、間伐しないほうが環境破壊だ」と仰っしゃりました。それらの木の場合は、逆に整備しないと、その木に日光が阻まれ他の植物が育たず、自然の生態系がますます崩れる原因、土砂崩れがおきる原因、木がまっすぐ売れずに育たなくなる原因などになるそうです。だからこそ、間伐をすることは大切であり我々は自然を守るために責任を持って次世代に林業を繋いでいかなければいけないと言われました。

今回の合宿は、これまでの高校生活で最も印象的な出来事でした。まず、自分がどれだけ狭い視野だったか気づけた、というのがとても大きいです。私は人見知りであり友達が多くなく、田舎に住んでいるというのもあって、自分の手に届く世界しか見えていなかったと思います。しかし、今回全国の高校生の皆と出会う、それぞれ出身地や方言、趣味や関心もまったくバラバラな子たちと関わって会話したり議論したりする中で、「こんなに色々な個性や魅力を持った同世代がたくさんいるんだ」「同世代で質問や発表がすごく上手い子がこんなにたくさんいるんだ」と、自分がこれまで知らなかった世界を知ることができて、世界の広さに衝撃を受けました。

今までどこか他人事を感じていた山間部の問題がやっと目の間にあるように感じました。また、今まで全くと言っていいほど山間部についての知識がなかったのだな、痛感しました。今回お話を伺ったときに1番驚きだったのが、医療体制が想像以上に整っていたことです。ヘリコプターで人を助けに行くのは逆に都会では難しいことだし、ここで山間部の強みが見られるとは思っていませんでした。また、山間部の課題解決においての現地の方が行おうとしている活動や、現地の状態など、まだまだ都会に住んでいる人には情報が得難いことが現状だと思いました。最終日の発表で他の班のアイデアも聞いて、山間部地域の課題解決がとても現実味を帯びてきた気がします。自分たちのアイデアをどう形作るかを考え、実践できるようにしていきたいです。

## 【受講生・修了生の活動】

京北合宿の際にセブン-イレブン共催のワークショップで「Z世代」と語る、サステナブルで、コンビニエントな未来のデザイン」を開催しました。その企画の中で生まれたアイデアがCSRマガジンに掲載されます。お見かけの際は是非手に取ってご覧ください。  
 2021年10月末発行予定です。



## 【受講生・修了生の活動2】

第1期修了生（熊本県立済々黶高等学校）が「エコ〜るど済々」というグループを結成し、地域で排出される廃ペットボトルを回収し、地元の様々な業者と連携してオリジナルエコバッグを製作しました。このエコバッグは、幅広い用途に使用することが可能で、使用後は回収して自動車の断熱材として再利用する予定です。今後は活動の幅を広げ、プラごみ専用のゴミ箱設置や済々黶行動憲章の作成を予定しています。

